



## 『案内表示等の多言語表記調査』の結果について

### 富山駅・金沢駅・福井駅を起点とする観光ルートのご案内表示の

### 多言語対応の現状について外国人留学生の視点で調査しました

北陸経済連合会では、訪日外国人旅行者の受入環境の向上に向けて、主要な駅・観光案内所・バス停・観光地等における案内表示等の多言語表記の現状について、富山大学・金沢大学・福井大学の留学生にご協力頂くことで外国人の視点による調査を実施しましたので、結果概要をお知らせします。

なお、調査により明らかになりました課題につきましては、関係機関に対して、その対応の方向性ととも報告させて頂きました。

#### ○調査概要

〈調査期間〉 2019年8月7日:石川エリア 2019年8月8日:福井エリア  
2019年8月10日:富山エリア

〈調査対象〉 誘導サイン、案内図、規制サイン、説明サイン、その他の案内表示

〈調査言語〉 英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語

〈調査内容〉 3つのエリアを共通の観点で比較検討するため、場面ごとの特性の違いから次の4つに分類し、調査を実施（①駅②二次交通（都市近郊・郊外をつなぐ鉄軌道、バス等）③徒歩④観光地）

#### ○調査結果

- ・ 今回の調査では県庁所在地のJR駅、二次交通、徒歩、観光地の案内表示等の多言語表記について現地調査し、主要な場所（JR富山駅・金沢駅・福井駅の吊り下げ型「誘導サイン」や駅構内の案内図、金沢城公園エリアの案内図、えちぜん鉄道福井駅の吊り下げ型「誘導サイン」）等では多言語表記対応されていた。一方、外国人留学生からは、添付資料のとおり、「見つけづらい」「分かりにくい・読みにくい」といった指摘や改善の意見が出された。
- ・ 案内表示については、交通事業者、観光事業者、観光関連団体、地方自治体（道路、交通、観光など多様なセクションが関係している）など様々な事業者・団体が設置しており各事業者間の連携の促進による案内表示における共通した取り組みが期待される。
- ・ 訪日外国人旅行者が今後も増えると見込まれる中、外国人もストレスなく快適に観光を満喫できる環境を今後も整備することが望まれる。

例えば、関係する事業者・団体で連携を図り、QRコードを介しての翻訳webページへの案内や音声解説アプリの導入、さらにAIや将来的には5Gの活用なども視野に、案内表示の多言語表記を外国人目線で一層改善・強化していくことが望まれる。

【添付資料】「2019年度 案内表示等の多言語表記調査(概要版)」

※ 北陸経済連合会HP新着情報に掲載 <http://www.hokkeiren.gr.jp/>

(問合せ先;北陸経済連合会 狩野(かのう)・高田 TEL:076-232-0472(代表))